

第1回 北九州市地域福祉計画策定懇話会 議事要旨	
日時・場所	平成22年6月4日(金) 13:30~15:30 北九州市立商工貿易会館 2階 多目的ホール
発言者	内 容
	<p><b>【開会】</b></p> <p><b>【議題(1) 委員長・副委員長選出】</b> 出口委員長・下河邊副委員長が退任されたことに伴い、新たに委員長に山崎委員を、副委員長には野田委員を選出。</p> <p><b>【議題(2)】</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><b>健康福祉北九州総合計画の進捗状況について</b> (資料1について説明)</p> </div>
委員	<p>評価項目「市民の健康への意識は向上したか」の指標 1「特定健診受診率」は74歳までの統計となっているが、75歳以上の方の意識や状況をどう把握していくのか。</p>
計画調整担当課長	<p>今回は特定健診の受診率をもって指標の一つとしている。市民の健康への意識の向上について、より幅広く年齢を問わず把握していくことは必要であると考えている。</p>
委員	<p>特定健診の受診率については、昼間働いている個人事業主やパート勤務の一人暮らしの方、主婦の方などへの特定健診の勧奨をしていかないと受診率はなかなか向上しないのではないかと。会社勤めをされている方に対する健診のPRはどのように展開していくのか。</p>
健康推進課長	<p>昨年は特定健診の未受診者に対し、受診勧奨を電話で行った。その際に土曜日に開診している病院、集団検診での日曜健診があることをお伝えした。今後ともそのような情報提供など、勧奨の取組を続けていきたい。</p>
委員	<p>本市では特定健診の実施は医師会に委託され、市内517箇所の登録医療機関があり、非常にアクセス良く受診できる環境が整っている。</p> <p>若松区では保健・医療・福祉・教育・地域連携推進協議会(以下「推進協」と記す)の「若松あんしんネットワーク」が全体として協力して受診勧奨に取り組んでいる。若松の推進協が一体となって受診勧奨をした結果、28.7%という非常に高い受診率を達成できた。他の行政区の推進協でも参考にしていきたい。</p>
委員	<p>現状を表す数値の把握だけで終わりなのか。</p> <p>例えば指標の中の就職件数では、就職後どの程度定着したかを考慮する必要がある。また、各種相談機関への相談件数についても、相談の結果どうなったのかが重要であり、今後はそのような実態まで把握し、進捗評価を行っていくのか。</p>
計画調整担当課長	<p>指標の数値だけではなく、実態を考慮する必要があると考えている。今後、指標の数値だけでなく、内容や実態を見て現計画の進捗状況を把握することも考えており、今後も議論していただきたいと考えている。</p>
委員	<p>評価項目「市民の健康への意識は向上したか」に関して、65歳以上の方へ介護予防健診が行われていると思うが、その受診率等の数値を把握しているか、また行政としてはどのように取り組んでいくのか。</p>

健康推進課長	<p>介護予防健診の前提となる特定高齢者の把握については、昨年度から要介護認定を受けていない高齢者全世帯へ日常生活に関するチェックリストをお送りした。その回答の内容に応じて、介護予防健診を受けていただき、特定高齢者を把握するという手順を踏んでいる。</p> <p>特定高齢者は年々増加し、昨年度で約 7,000 名となっており、特定高齢者の把握自体はかなり進展していると考えている。</p>
委員	<p>後期高齢者に対しての健康づくり体制としては「かかりつけ医」がある。かかりつけ医は、健診の実施場所でもあり、高齢者の健康づくりをサポートするものでもあり、地域での健康づくり活動などにも出向いている。かかりつけ医を通じて、健康意識の向上が図れるのではないかと。</p>
委員	<p>指標の 15「地域包括支援センター相談件数」 16「保健福祉相談コーナー相談件数」 17「妊産婦・乳幼児何でも相談等開催箇所数」に相談件数が上げられているが、非常に件数が多い。専門職員のスタッフ数は足りているのか。</p> <p>また、指標 17の目標値が全市民センターとなっているが、校区の中でどの程度利用されているのかを指標とするべきではないかと。</p>
計画調整担当課長	<p>この件数には、電話相談から訪問したスタッフまで全て含まれている。確かに相談件数が多いが、現在は現有スタッフで対応しているところである。</p> <p>指標 17に関しては、今後進捗評価を行っていくうえで、内容を見ていただくことも必要と考えており、委員会でも議論を行っていただきたい。</p>
委員	<p>地域包括支援センターは非常に忙しい状態となっている。地域包括支援センターは要だと考えているので、今後ともよろしく願いたい。</p>
委員長	<p>これまでの議論を少し整理すると、一つはもっと多様な指標の設定の仕方がありうるのではないかとということ。もう一つは、指標の数値だけでなく、内容や実態に関わる部分を指標として設定できないかということ。現計画の評価について、事務局はこのような点を踏まえ準備を進めてほしい。</p>
	<p><b>【議題（3）】</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p><b>（仮称）「北九州市地域福祉計画」の策定について</b>  <b>（資料2について説明）</b></p> </div> <p>会の名称を「北九州市地域福祉計画策定懇話会」と改め、平成 23 年度以降の次期地域計画の策定についても議論するという事務局からの提案につき、委員全員了承。</p>
委員	<p><b>【議題（4）】</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p><b>地域福祉計画の方向性について</b>  <b>（資料3について説明）</b></p> </div> <p>計画の実行のためにまず必要なのは、地域づくり・コミュニティづくりだと思う。そのためには、地域での健康づくり活動や市民センターを拠点とした健康づくり活動が有効であると考えている。</p>

委員	<p>行政のなすべきことと、地域の主体性や自主性とは相反するところがある。地域が崩壊しつつあるという実情に対して、地域の方々にサービスの受け手であると同時に担い手であることをどう自覚していただくか、非常に難しい命題である。</p> <p>また、障害者や高齢者、子どもといった複数の分野にまたがったとしても、簡単に支援ができるような体制が必要である。これからは、複数の分野にまたがった支援が、行政のなすべきこととして大きくなっていくのではないか。</p> <p>先日ひまわり基金の市民活動スタートアップ助成事業を紹介したら、やってみようという団体が出てきた。市民の主体的な活動を後押しするやり方があるので、知恵を重ねていくことが必要だと思う。</p>
委員	<p>次世代育成の視点からいうと、学校との連携が大切になってくるが、中々連携がとりづらい状況にある。今後は小・中・高校生といった、小さな頃から地域福祉に関する認識を少しずつ育てていく必要があると思うので、学校との連携を考えていただきたい。</p>
保健福祉局長	<p>我々が地域福祉計画をどのように考えているか、についてお話したい。</p> <p>地域には高齢者・障害者・子どもなど個別の分野の問題があるが、それを例えば一つの家庭といった単位でみると、様々な分野の問題が混在している状態にある。行政から見ると、非常に幅広く混在している問題を地域でどうやって解決していくか、が課題となる。こうした課題に対応していくため、地域福祉計画は各分野別のどの計画にもかわりを持つようになると考えている。地域福祉計画においては縦割りを排して計画策定を進めていきたい。</p>
委員長	<p>地域における関係団体の活動と連携という項目があるが、これに「協働」という言葉を加えてほしい。協働は特定の目標を立て異なる団体が協力しようということで、連携に比べより狭い、活動的な概念である。</p> <p>また、資料3の4「地域福祉計画に定める内容」について、「行政サービスの適切な運営・提供」という項目の中に「関係団体との協働によるサービスの充実」が出てくるが、これは地域の様々な団体との協働による新たな公共サービスの提供ということであり、地域福祉計画の方向性の大事なポイントになると思うので、協働に関する項目として別に立たた方がよい。</p>
委員長	<p>それでは、ご議論いただいた方向性に沿って、懇話会の意見を踏まえ、計画の策定にあたっていくこととしたい。</p> <p><b>【報告（1）】</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p><b>「北九州市地域福祉計画に関する市民意識調査」の結果について</b>  <b>（資料4について説明）</b></p> </div>
委員	<p>同様の内容の調査は以前にしたことがあるのか。</p>
計画調整担当課長	<p>地域福祉に着目した今回のような調査は初めてである。</p>
委員長	<p>知人・友人が重要なファクターとして調査結果に現れているが、どういうきっかけで知人・友人となったか、その中身がわかるような調査は行っているか。</p> <p>これまでの計画では、町内や小学校区など地域を中心としたコミュニティを基本としてきたが、知人・友人は地域を超えた目的を共にするコミュニティであり、次期計画の中に組み入れていく必要があると思う。</p>

<p>計画調整担当課長</p>	<p>今回知人・友人について、どういう種類の知人・友人かまでは尋ねていないが、小学校区の内と外にいる知人・友人の人数は尋ねている。 小学校区内にいる知人・友人は、地縁組織の活動を通じたものと推測され、小学校区の外にいる知人・友人は学生時代からの付き合いやボランティア・趣味活動、会社などを通じたものではないかと考えられる。</p> <p><b>【その他 全体を通じて】</b></p>
<p>委員</p>	<p>資料1の中で、指標 21「一般高齢者のうち、かかりつけ医のいる割合」という指標があがっているが、これも一般高齢者となっており、後期高齢者も対象に含めてもらいたい。</p>
<p>計画調整担当課長</p>	<p>一般高齢者は要介護認定を受けていない65歳以上の高齢者のことであり、75歳以上も含まれている。</p>
<p>委員</p>	<p>行政の窓口などに相談に来る方は、自らの意思表示ができていないが、虐待や引きこもり、貧困といった問題など、自分達から窓口アプローチしてこない部分を、行政が福祉の問題としてどのように取り組んでいくか。次期計画の中では、隠れた問題が解決のための窓口につながるようなシステム作りをテーマの一つとしていただきたい。</p>
<p>計画調整担当課長</p>	<p>ご指摘いただいた点は非常に難しい問題として認識している。 次期計画においては、地域の皆さんに対して「それぞれがどのようなことに取り組んでください」ということをわかりやすく伝えるものとなるのではないかと今のところ考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>市民意識調査の「福祉についての相談相手」の年代特性別の集計をみると、65歳以上は自治会を頼りにされている人が多い。校区の中のキーマンである自治会の加入促進についても、行政として考えていく必要があるのではないかと。</p>
<p>委員</p>	<p>高齢者になると虐待や認知症について他人にあまり相談せず、地域包括支援センターに相談する人が多い。センターの相談員は現場に出向いて相談を受けており、福祉に関する相談相手として、地域包括支援センターもかなりの割合を占めていると思う。今後は地域包括支援センターの活用の仕方などをもっと情報発信してよいと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>自治会活動は非常に重要である。ところが、現状では自治会を脱退していく人が多い。我々民生委員・児童委員としては自治会と連携したいが、自治会に入っていないから関係ないと言う方もいる。 自治会が主体となって地域づくりをしていくことが大事なので、自治会の脱退に歯止めをかける方法がないか探してみたい。</p>
<p>委員長</p>	<p>地域福祉計画のベースとなる地域が脆弱ではないか、その上にシステムをつくるのは難しい、という問題がある。地縁団体を含めた地域コミュニティのありようも踏まえて計画の策定もすすめていく必要がある。</p> <p><b>【閉会】</b></p>